

岩倉市タウンミーティング（コミュニティカフェかがよひ）会議録

日時 令和3年7月2日（金）

午後7時30分～9時

場所 コミュニティカフェかがよひ

出席者 コミュニティカフェかがよひ 13名

市長、副市長、総務部長、秘書企画課長、企画政策グループ長、広報広聴グループ長

テーマ 市長の抱負と市民の期待

1 あいさつ

- ・コミュニティカフェかがよひ 水野氏
- ・久保田市長

2 懇談

事前質問

- 2期目に特に力を入れたい事業はどんなことか
- 岩倉がどんなまちになってほしいか
- しがらみが無ければどんなことをしたいか
- コロナ禍において住民自治をどう継続するのか

事前質問について市長より説明

・まちづくりの目標として「住むなら岩倉！子育て・健幸・安心なまち」を掲げている。1期目に市長として市政を担わせていただく中で、大きく2つの課題が見えてきた。1つは地域の活性化、もう1つは環境問題である。

・地域の中で担い手不足が深刻化している。これまでの区の制度は限界が来ているのではないかと感じている。防災・防犯などはこれまでもだが、これからは健幸づくりの点で、居場所・生きがい・仲間づくりなどの場として地域に大きな期待がかかっている。そういった点での地域活性化に取り組みたい。行政区の枠組みについて検討したり、もっと女性や若い世代の関わりを増やすことなど、膝を交えて話すことにより地域ごとの課題を把握していかなければならないと思う。

・地球環境から地域の美化に至るまで、環境全般についてしっかりと取り組んでいかねばならない。環境問題は制度だけでなくマナーの問題でもある。人の意識を変えていくということはハードルも高いが、人間として共通する課題でもあると思う。五条川の桜並木の再生にも取り組んでいきたい。

・人口にこだわっていきたくない。第5次総合計画でも将来人口を定めているが、50,000人をめざしてまちづくりをしていきたい。住みやすいまちには人が集まってくるはず。

・市政を運営していくうえで「しがらみ」を感じたことは特にはない。これまでに実施されてきたことや、予算の制約などはあるが、それは当たり前にあることであってしがらみとは感じていない。

・コロナウイルスの影響はまだしばらく続く。その中で人と人との絆は深めていかななくてはならない。相反することを進めていかなければならないのでなかなか難しい。テレワークやタブレットでの授業など、ビジネスや学校の世界では人と会う機会は減っている。自治の世界ではそれとは反対の方向に進めたいと思っている。そのためには工夫がいる。特効薬はないと思っているので、様々な人と意見交換をしながら、手探りで進めていくことになる。

3 意見交換（要旨）

【参加者】 市長の職務の楽しさはどういったことがあるか。

【市長】 楽しいかどうかというよりも、やりがいであると思う。前職は自治体職員であったこともあり、行政の仕事のやりがいはよくわかっている。

また、祖父も父も行政に関わってきたので、小さいころから行政との接点があった。職員時代、何か仕事を任されて、それを住民の皆さんと話しながらか進めていくことにやりがいやおもしろさを感じた。

つらいことももちろんある。そんな中、皆さんと話をしていくことでポジティブな話ができたり、良い結果が出たりすることが次の力になる。

【参加者】 地域組織にはまだまだしがらみのようなものはあると思うが、地元では50代、60代の役員も増えて、これまでの前例踏襲の部分についても見直しに入った。コロナの影響で行事ごとをこなすことに追われなくてもいい状況を活用し、区の状況を刷新し次の担い手へつなげていきたい。

人口へのこだわりという話があったが、住宅施策無くして人口増はないと思う。ニュータウンを形成するような時代ではないことはもちろんわかっているが、住宅施策についてどのように考えているのか。

また、文化振興についてどのように考えているのかも知りたい。住む人が住み続けることを誇りに思い、住み続けたいと思う、そういう意識があつてこそその人口増だと思う。山車などの文化財があるが、手に取り、目で見て、動かして、お祭りができる、そういう文化が継承されている。そういったものを生かしたまちづくりをしていくべきだと考えている。

【市長】 住宅施策については、まずは需要がないことには進まない。住宅施策の前段

階として、雇用の創出が必要であり、そのために企業誘致を進めているところ。また、総合計画の土地利用の方針では、住居系拡大検討ゾーンとして井上町周辺と、南新町すぐ南側の稲荷町のゾーンを定めている。将来的に需要があるとなった際には区画整理等を行い進めていく地域である。

開発は市街化区域から手掛けていくのが基本だと考えている。まずは市街化区域の有効活用から。需要は一気には増えてこない。

【参加者】 岩倉団地にエレベーターができたので、空き家がかなり埋まるのではないかと。また、枇杷島のURが無くなる予定であることから、岩倉に人が流れてくることが見込まれる。市街化区域内の生産緑地をつぶすことよりも、空き家の有効活用を考えるべきだと思う。

【市長】 空き家の活用は重要だと思っている。また、決して農地をつぶそうとは思っていないが、農業を続けることの難しさについてもよく聞くところである。塀に囲まれた資材置場のようにになってしまうのはもったいない。生産性の高い土地利用をしていきたい。

文化というものは範囲としてはかなり広いものであるが、心の支えになるものというイメージを持っている。音楽、絵画、書物、歴史など。例えば山車。尾張地方最大級の山車であり、岩倉が誇るべきもの。400年も地域で守ってきただけでいい。岩倉の誇りをPRするなかで、そういった歴史を知らない人にも「岩倉ってすごい」と思ってもらって、それが愛着につながり、定住意識につながっていく。また、文化に親しむことが仲間づくり、生きがいくくりにつながり、それは健幸の「幸」の部分になる。

【参加者】 岩倉の歴史が正しく理解されていないのではと思う。交通の要衝であったため市場が立ち、それで栄えていた。そういう素地があったので豊かさが続いていたのではないかと。それがあって山車を作ることができた。そういうことが地域に認識されていないのではないかと。

【市長】 街道のことも今後のまちづくりに生かしたい。

【参加者】 環境問題という点で考えを聞きたい。

【市長】 温暖化対策は人類の課題である。行政も市民も意識を高めていかなければならない。使命感を持って取り組む。具体的なものの例として、家庭から出るごみの分別・資源化をさらにしっかりとしていきたい。岩倉の分別は地域の協力を得ながら、かなり進んでいると思う。リサイクル率も優秀である。だが、小牧市には数値で負けている。リサイクル率を高めるなど、市民とともに取り組んでいきたい。

また、きれいなまちを作りたい。その1つとして路上喫煙の規制に関する条例を作った。これからPRしてまちの美化意識を高めていく。ごみの集積所の問題については、ネットでの対策だけでは限界もある。地域に合った対策があ

と思う。

【参加者】 市の職員は公用車ではなく自転車を利用してはどうか。見かけたことがないが。

【市長】 自転車の活用は既に行っている。

【参加者】 もっと活用してほしい。せっかくコンパクトなまちなのだから、自転車で走ること、市民の顔も見れるし、例えば道路の危険箇所など見えてくるものも多い。

【市長】 業務内容にもよるが、確かに歩いたりすることでよく現況がわかる。

【参加者】 自転車で走るにも道路の状態が悪かったりして危ないことがある。舗装や水たまりなど、しっかりと綺麗にしてもらいたい。

【市長】 生活道路と幹線道路の役割をきちんとしていきたい。マニフェストでも「人も自転車も車も安心して通行できる交通環境整備」を挙げた。規制も含めていろいろな考えがある。交通安全対策は大きな課題であると考えている。

【参加者】 名草線の拡幅が地域の分断を招いているという意見がある。押しボタン式信号を設置するなどして人が行き来できるようにしては。

【市長】 地元でいろいろな要望がある。押しボタン式の信号については、警察からは危ないので設置は難しいと言われている。

【参加者】 コロナ禍において、高齢の母は買い物にも行きにくい状況であった。車両を巡回して必要な品を聞いて回り、配達するような仕組みをつくってはどうかという相談をしたが、実現には至らなかった。コロナ対策に限ったことではないかもしれないが、高齢者が増えるなかで、岩倉独自の取り組みなどを増やしていけないか。

【市長】 高齢化への対応は必要である。行政サービスの形は時代によって変わっていくものだが、実施するタイミングは見極めが難しい。限られた予算を適正に分配していく中で、優先順位を決めて取り組む必要がある。また、行政が直接行うのではなく、民間で取り組まれている公共性の高いものにはお手伝いをするという方法もある。そこに雇用や生きがい生まれることも期待される。全体を見た中での優先順位、重要性を考えつつ、皆さんの提案をお聞きしながら進めていきたい。

【参加者】 町内会について語るワークショップを計画している。参加者がお互いの意見に耳を傾け、よく聞くことからスタートしようという取り組み。地域の課題に関しては、もちろん行政に手伝ってもらいたいものもあるが、地域だけで解決できる問題もいっぱいあると思っている。

【市長】 建設的な提案型の会議はとてもよいことだと思う。行政職員もそういった場に対等な立場で入っていけるようになるとさらにいいと思う。

【参加者】 各種おまつりが中止になっているが、盆踊りくらいは何とかできないものか。

方法を模索してほしい。

【市 長】 盆踊りについても協議を重ねてきた。改めて冷静に考えると、マスクをはずすことができない、飲食もできない、距離もとらなければならない、そういった条件において盆踊りをするのがよいのかどうか。イベントやお祭りというのは当日だけでなく、そこへ至る過程で絆が深まるものであり、過程が大切だと思う。コロナの状況が改善されれば順次実施していきたい。

【参加者】 できる、できないの基準のようなものがあるといいのと思う。

【市 長】 イベントの開催判断基準となるガイドラインはある。

【参加者】 コロナウイルスの影響で様々なことが中止になり、地域で大切なもの、つながりなどがどんどん失われている。

【市 長】 高齢者の居場所なども失われるなど、現実として深刻な問題がある。

【参加者】 祭りにしても、文化にしても、つながりがなくなると継承されなくなってしまい、途絶えてしまう。

【市 長】 いったん途絶えてしまうと、再開するのに大きなエネルギーが必要になる。「やらなくてもいいや」という気持ちが出てくるのが怖い。

【参加者】 2年間活動できないと、例えば学校のクラブ活動などでもクラブの持つ風土のようなものが消えてしまう。

午後9時終了